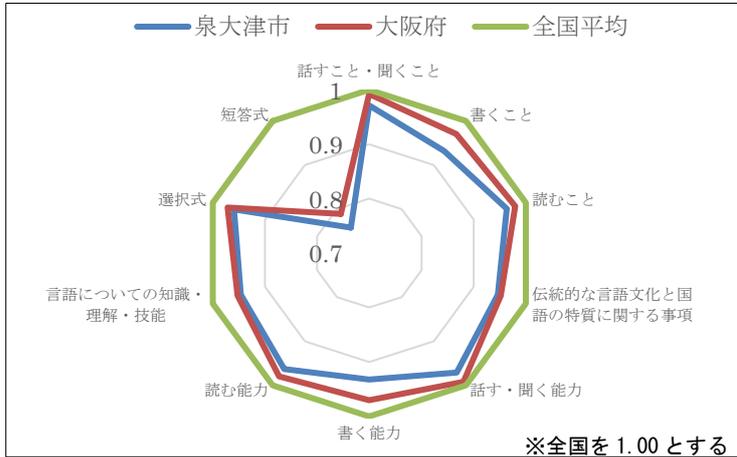


# 全国学力調査結果の詳細

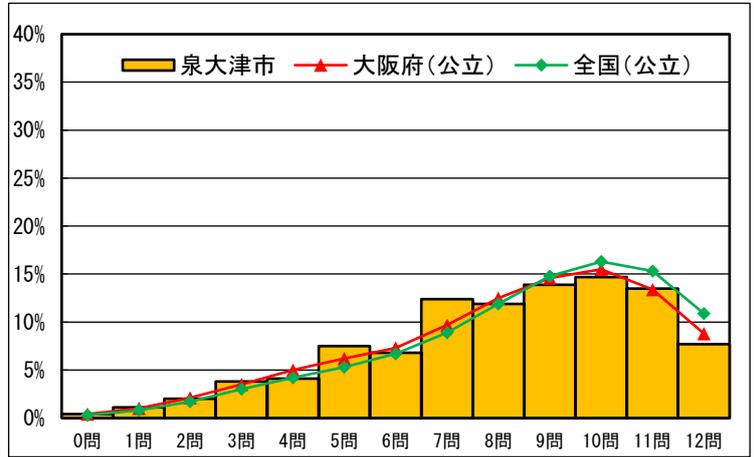
## 小学校 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

### 領域・観点・問題形式別

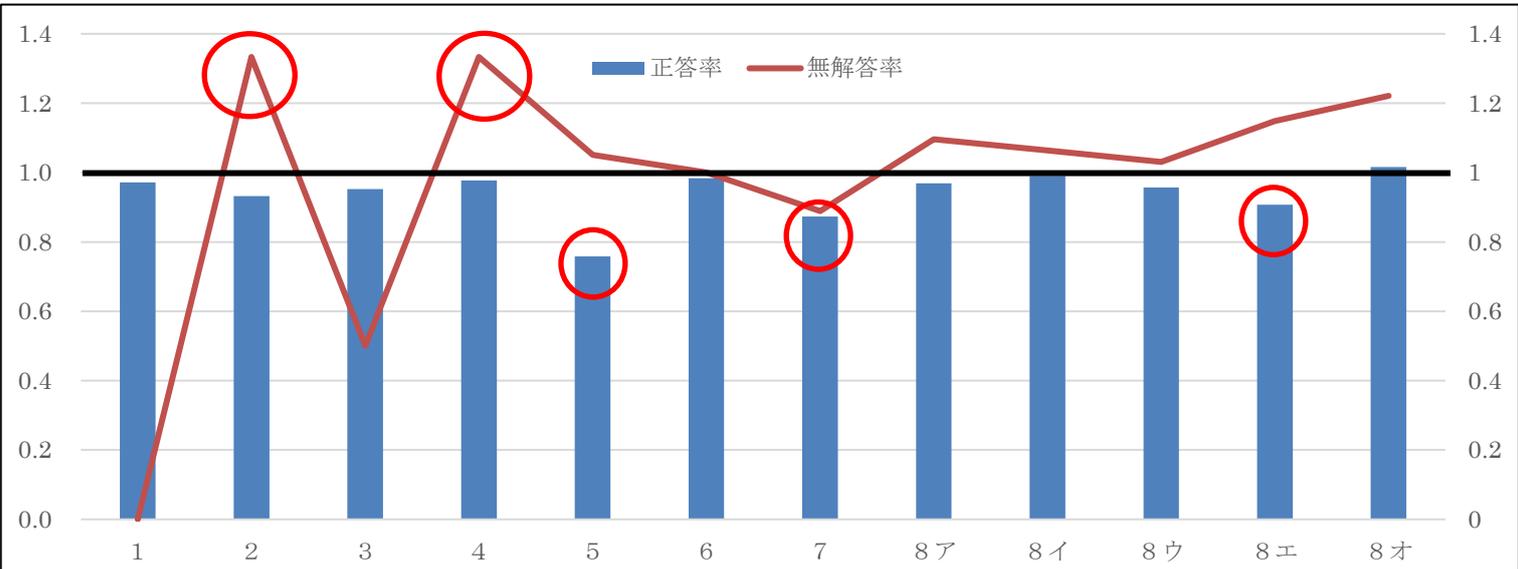


### 正答数分布



「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で府平均に迫っているが、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

全国・府と同様に正答数10問を頂点とした山型分布となっているが、正答数9～12問で全国・府より低い。



### 正答率・無回答率比較

全国の平均正答率および平均無回答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

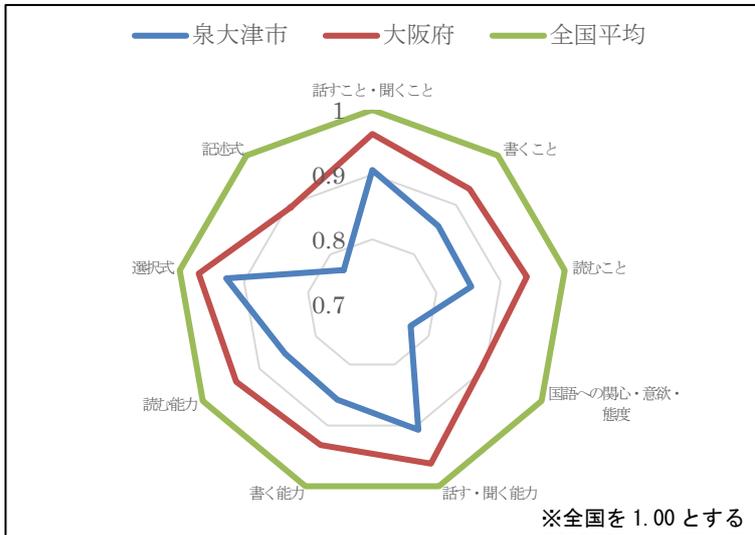
### 具体的な課題等

- ◆文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く【5】
- ◆相手や場面に応じて適切に敬語を使う【7】
- ◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う(かん理の「管」と同じ漢字を使う文を選択する)【8エ】

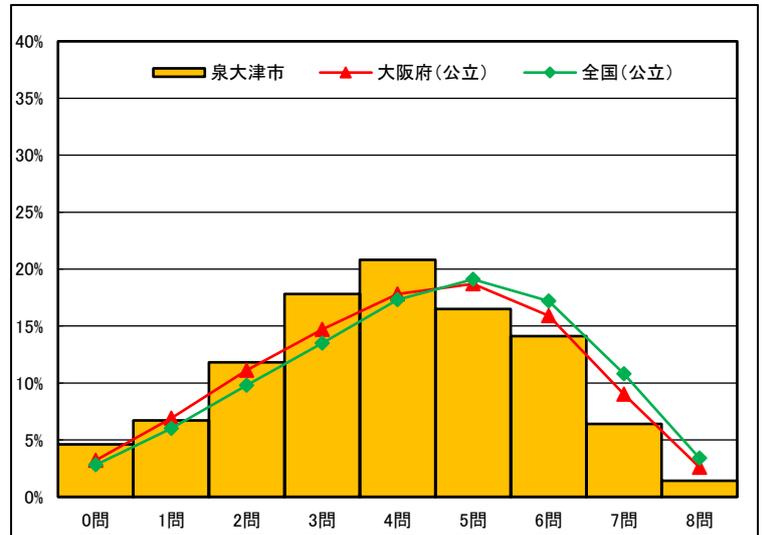
# 小学校 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

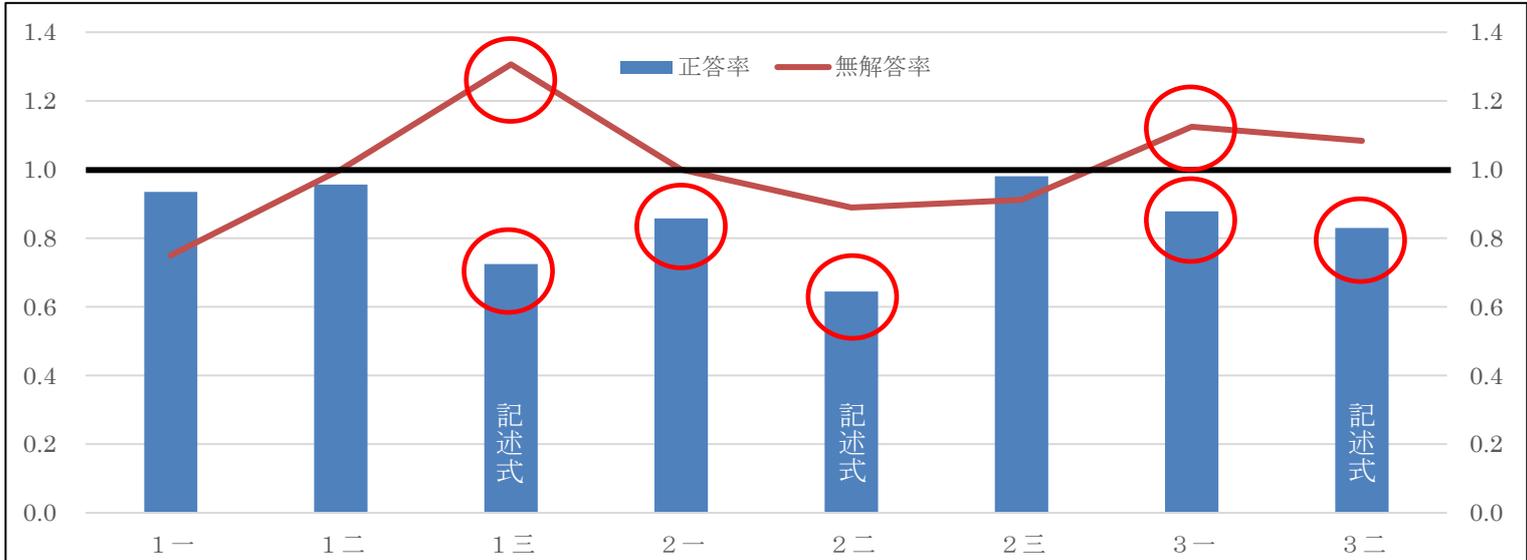


## 正答数分布



目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて書いたり、自分の考えを明確にしながらかんだりすることに課題がある。引き続き、指導事項を明確にした指導の充実が求められる。

全国・府は正答数5問を頂点とした山型分布であるが、本市は正答数4問を頂点とした分布であり、正答5～8問で全国・府より低い。



## 正答率・無回答率比較

全国の平均正答率および平均無解答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

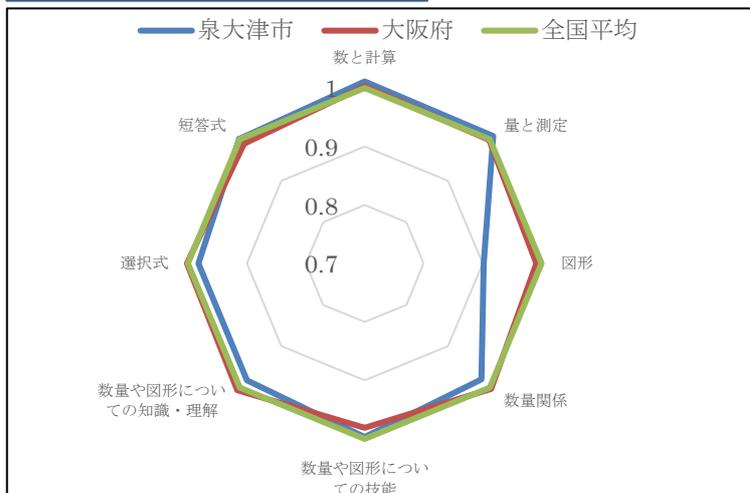
## 具体的な課題等

- ◆話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる【1三】
- ◆目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く【2二】  
 (【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて、相手に伝わるように【おすすめする文章】を書く)
- ◆目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかんだり読む【3二】  
 (【伝記「湯川秀樹」の一部】から取り上げた言葉や文を基に、心がひかれた一文の理由を考えて書く)

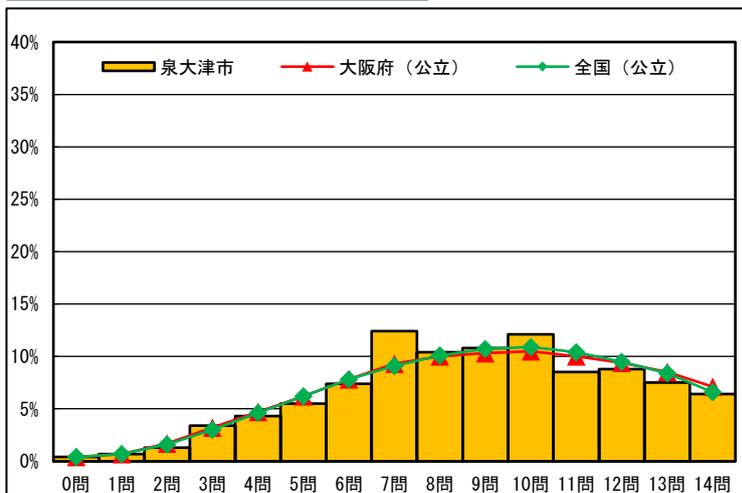
# 小学校 算数 A

(主として「知識」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

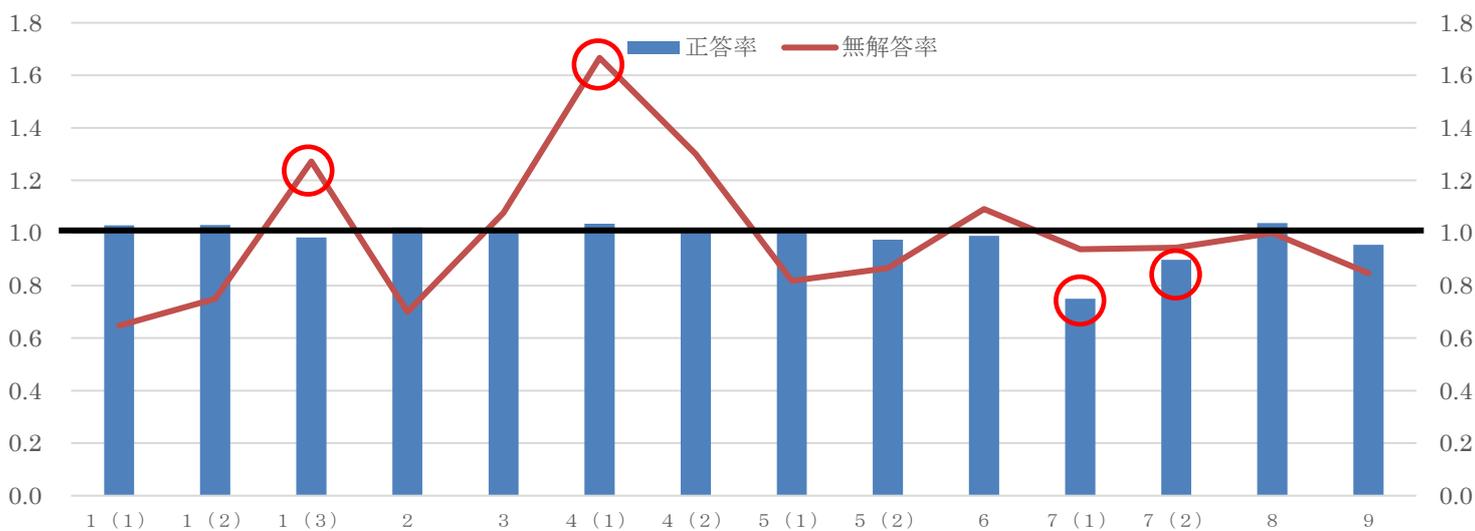


## 正答数分布



「数と計算」「量と測定」で全国平均を上回っているが、「図形」に課題が見られる。基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に一部課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

全国・府ともに10問を頂点とした山型を描いているが、本市は7問と10問の二山分布となっている。正答11～14問で全国・府より低い。



## 正答率・無回答率比較

全国平均正答率および平均無回答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

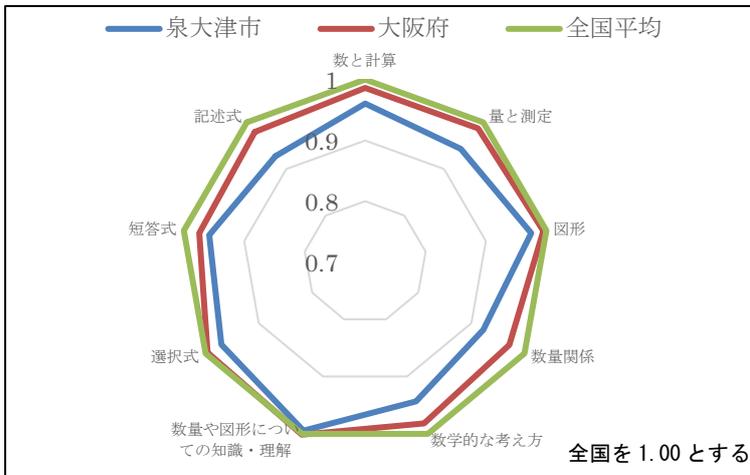
## 具体的な課題等

- ◆円周率の意味や、直径の長ささと円周の長さの関係について理解している【7(1)】【7(2)】
- ◆折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる【9】
- ◆1に当たる大きさを求める問題では、除数小数である場合でも除法を用いることを理解している【1(3)】
- ◆異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している【4(1)】
- ◆単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している【4(2)】

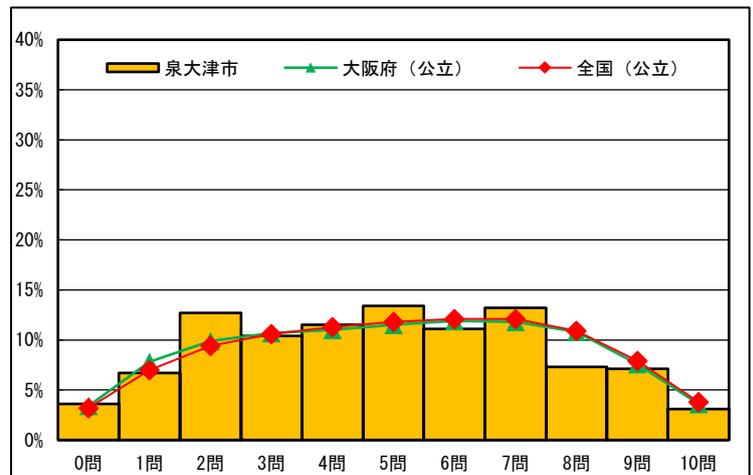
# 小学校 算数 B

(主として「活用」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

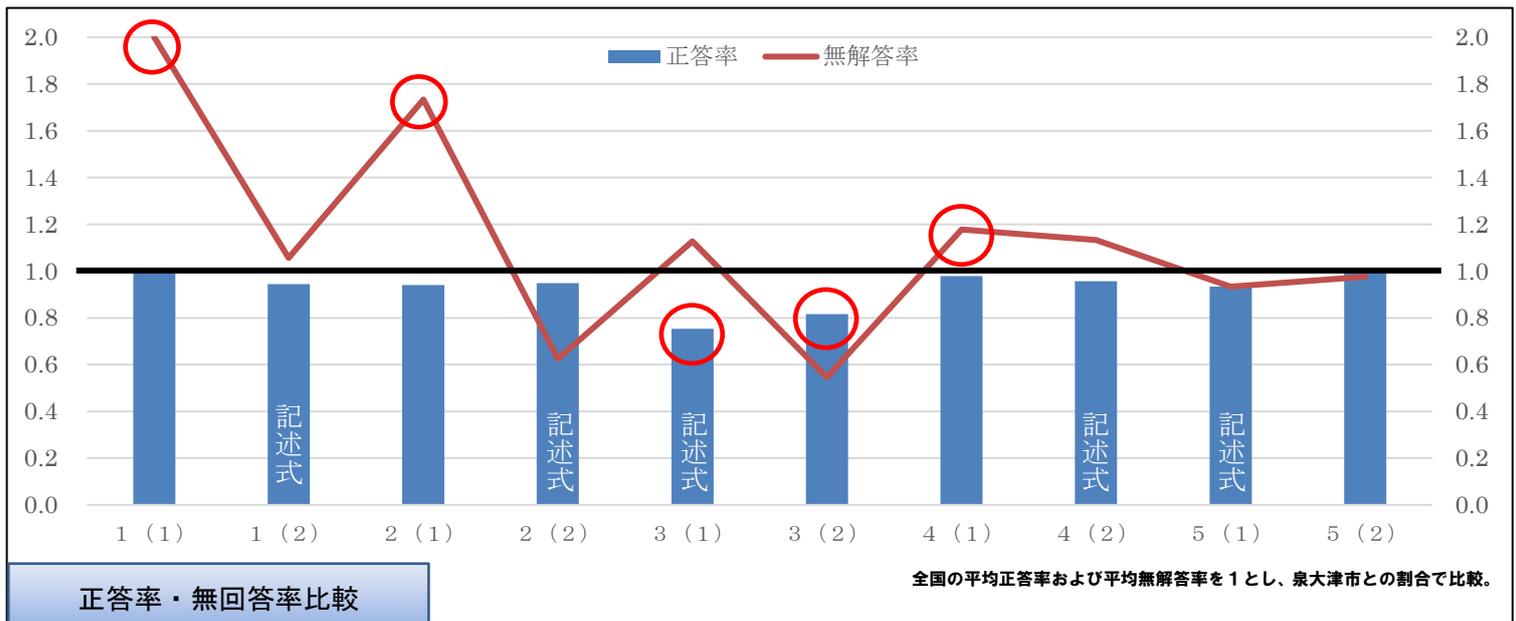


## 正答数分布



複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈したり、数学的に表現することに課題がある。引き続き、指導の充実が求められる。

全国・府は6～7問を頂点とした、緩やかな山型を描いているが、本市は2～7問で頂点が複数ある台形型の分布となっている。正答8～10問で全国より低い。



## 具体的な課題等

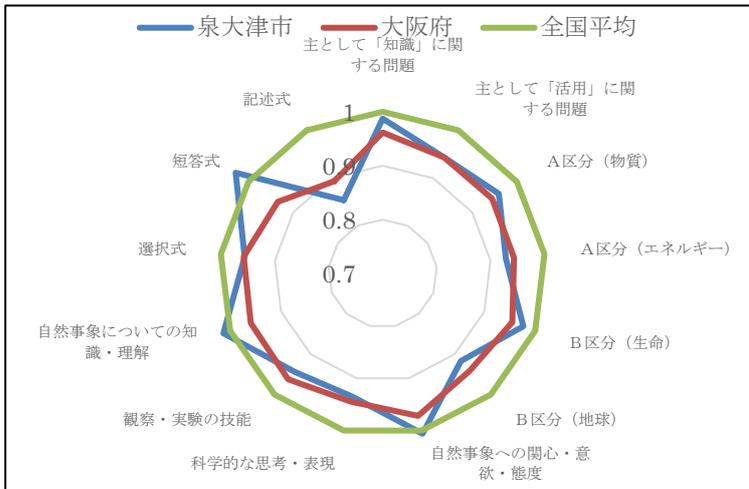
- ◆メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる【3(1)】
- ◆棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる【3(2)】
- ◆合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる【1(1)】
- ◆示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる(全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何かを書く)【2(1)】
- ◆示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる【4(1)】

# 小学校 理科

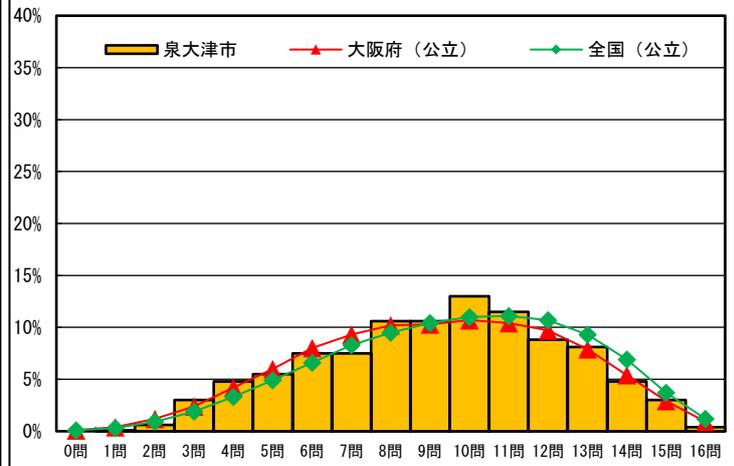
(主として「知識」および「活用」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

※全国を1.00とする

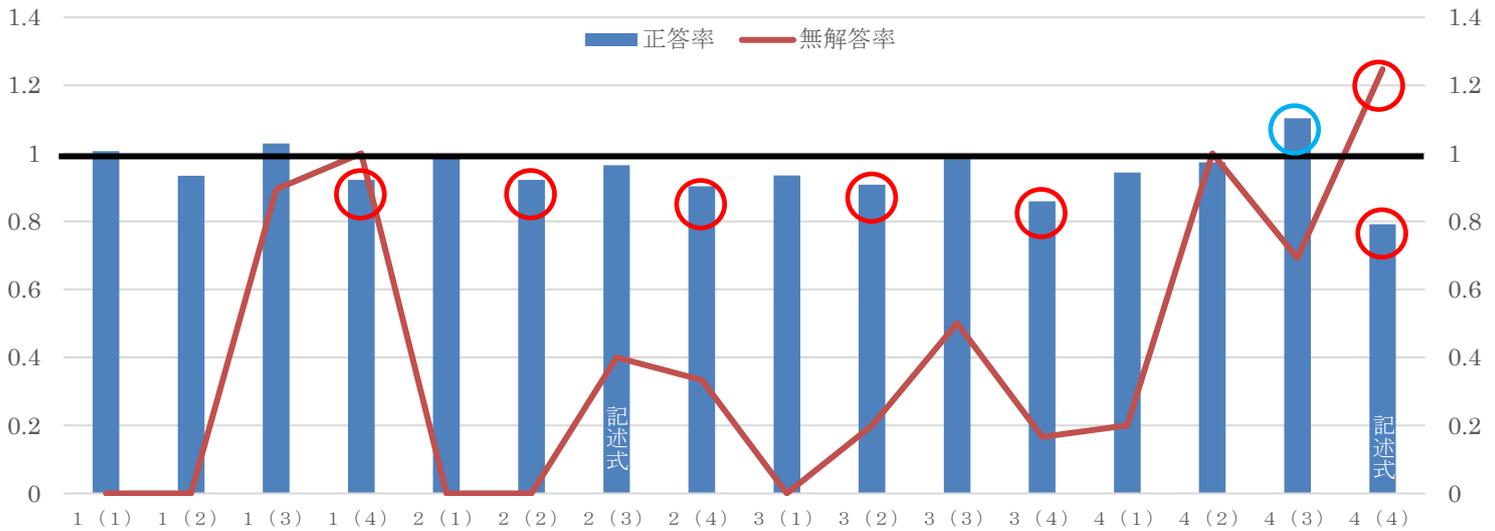


## 正答数分布



予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察したり、自分の考えを改善し表現することに課題がある。

全国は11問、府と本市は10問を頂点とした山型を描いている。  
正答12～16問で全国・府より低い。



## 正答率・無回答率比較

全国平均正答率および平均無解答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

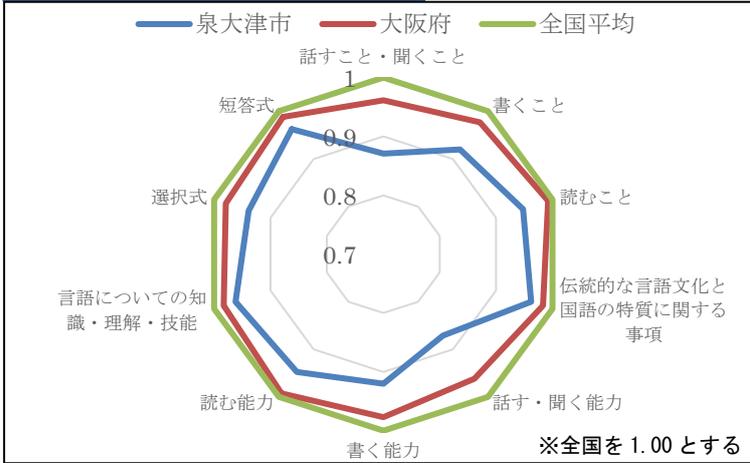
## 具体的な課題等

- ◆土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる【2(2)】
- ◆より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関連付けながら、分析して考察できる【2(4)】
- ◆電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる【3(2)】
- ◆太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる【3(4)】
- ◆実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる【4(4)】

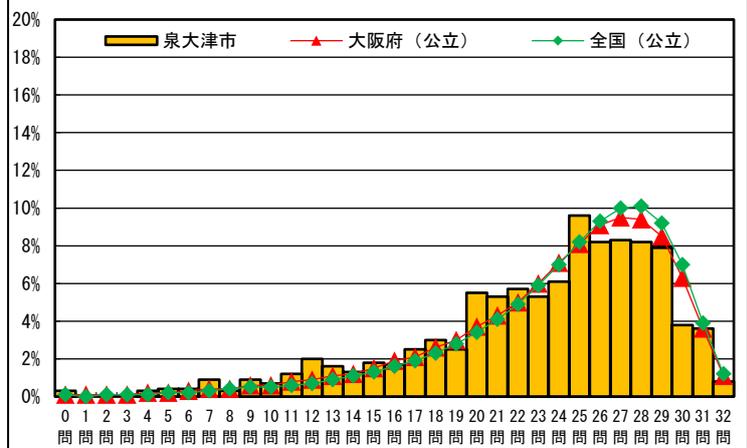
# 中学校 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

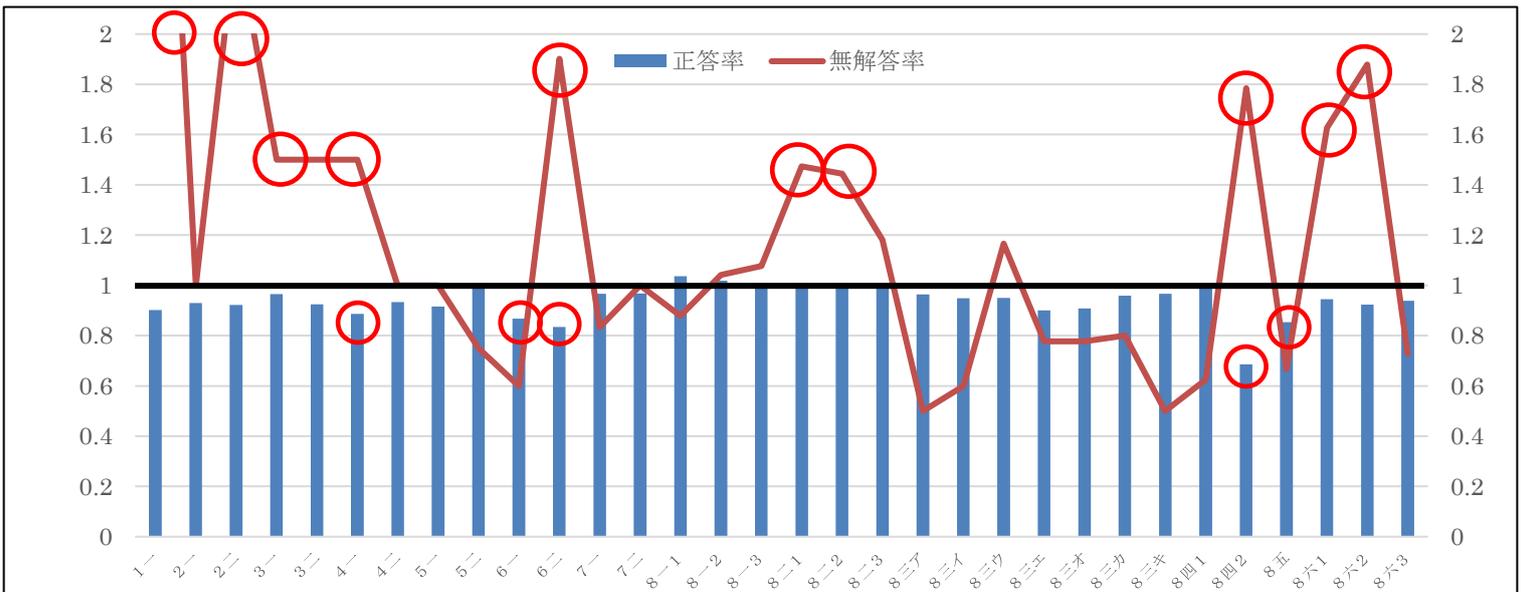


## 正答数分布



話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、目的に応じて適切な文を書くことに課題があり、指導の充実が求められる。

全国は29問、府は27問を頂点としているが、本市は25問を頂点とした山型分布であり、全国・府に対してやや左寄りの分布となっている。



## 正答率・無回答率比較

全国の平均正答率および平均無解答率を1とし、Ise Cityとの割合で比較。

## 具体的な課題等

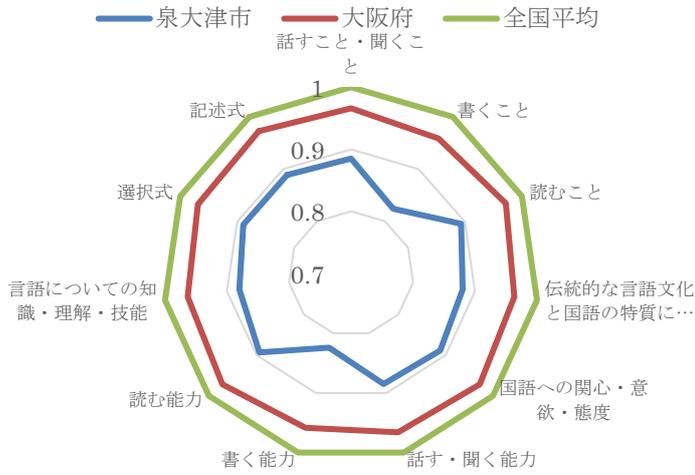
- ◆書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討できる【4(1)】
- ◆話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す【6(1)】【6(2)】
- ◆目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く【8(4)2】
- ◆行書の基礎的な書き方を理解して書く【8(5)】
- ◆伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く【2(2)】
- ◆古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える【8(6)1】
- ◆歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む【8(6)2】

# 中学校 国語 B

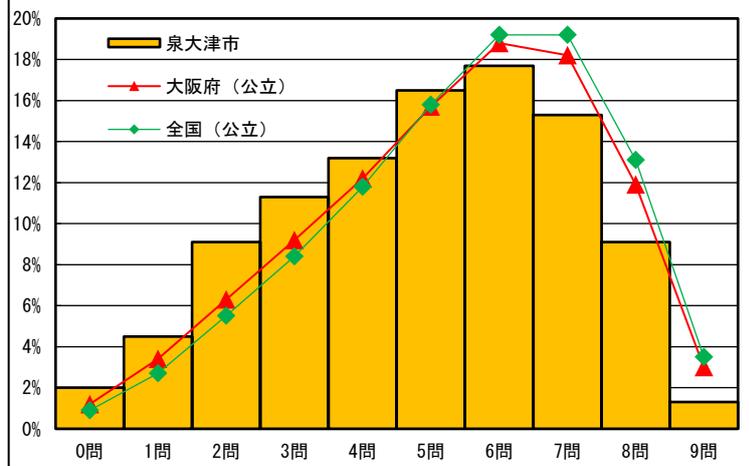
(主として「活用」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

※全国を1.00とする

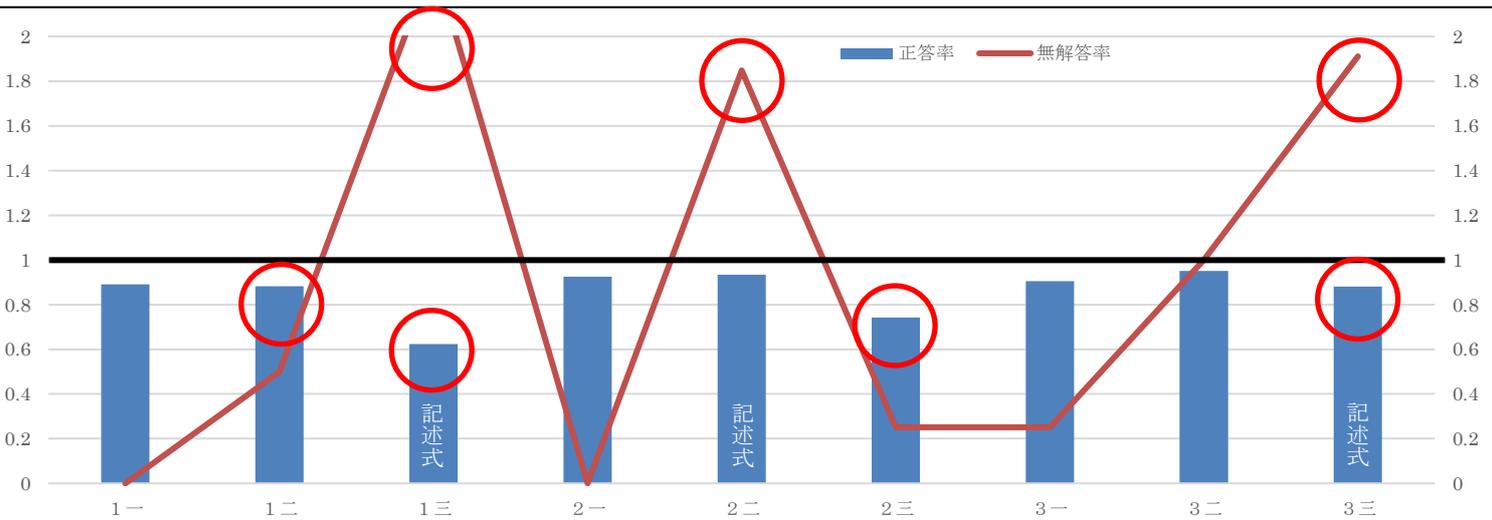


## 正答数分布



目的に応じて文章を読み、内容を整理して書いたり、相手の反応を踏まえながら話すことに課題があり、指導の充実が求められる。

全国・府と同様に正答数6問を頂点とした山型分布となっている。正答数6～9問で全国・府より低い。



## 正答率・無回答率比較

全国の平均正答率および平均無回答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

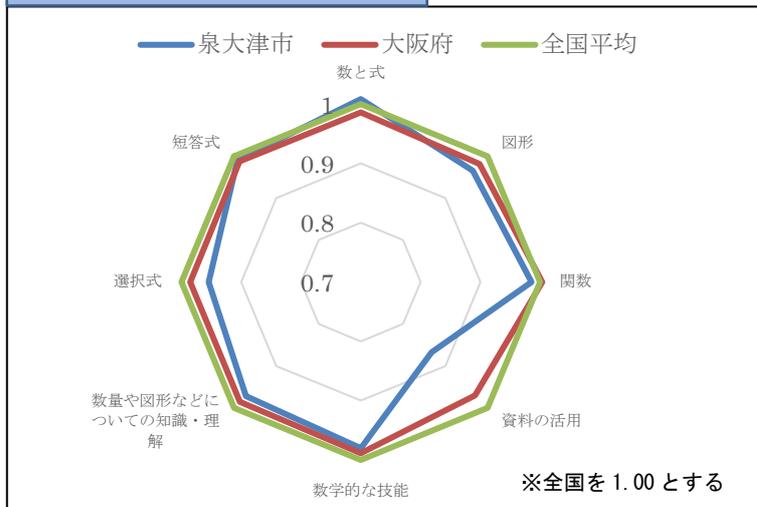
## 具体的な課題等

- ◆文章の構成や展開について自分の考えをもつ【1(2)】
- ◆目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く【1(3)】
- ◆全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す【2(3)】
- ◆相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く【3(3)】
- ◆話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する【2(2)】

# 中学校 数学 A

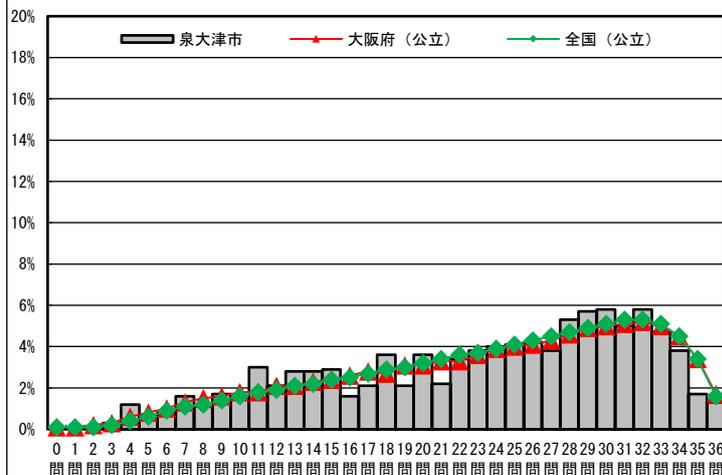
(主として「知識」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

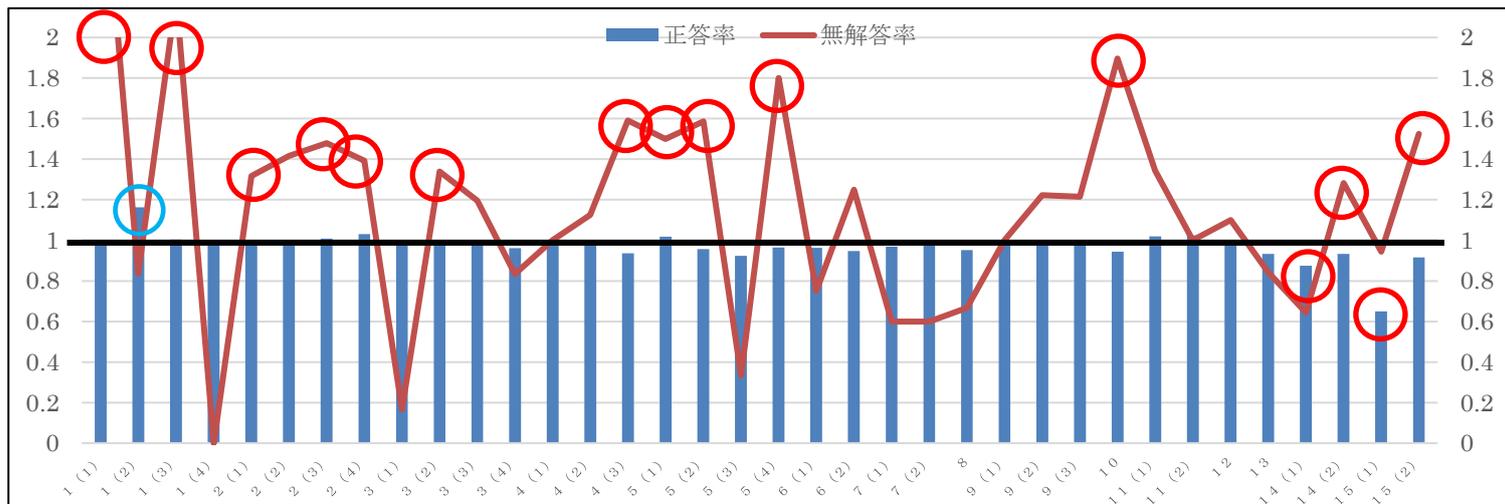


「数と式」で全国平均を上回っているが、「資料の活用」において課題が見られる。基礎的・基本的な知識・技能について、指導の充実が求められる。

## 正答数分布



全国・府が正答数 32 問を頂点とした山型分布に対し、本市は 30 問と 32 問を頂点としている。正答数 33～36 問で全国・府より低い。



## 正答率・無回答率比較

全国の平均正答率および平均無解答率を 1 とし、泉大津市との割合で比較。

## 具体的な課題等

- ◆最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している【1 4(1)】
- ◆多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している【1 5(1)】
- ◆回転移動した図形をかくことができる【4(3)】
- ◆半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している【5(2)】
- ◆四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の  $1/3$  であることを理解している【5(4)】
- ◆座標平面上に点の位置を示すことができる【10】
- ◆与えられた資料から中央値を求めることができる【1 4(2)】
- ◆表などを利用して、確率を求めることができる【1 5(2)】

# 中学校 数学 B

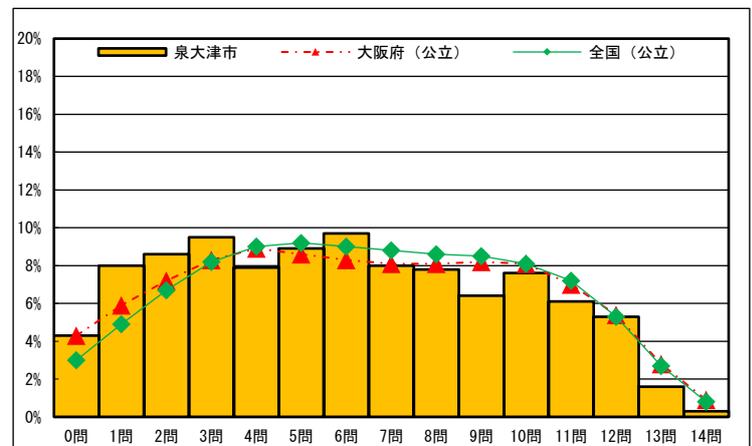
(主として「活用」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

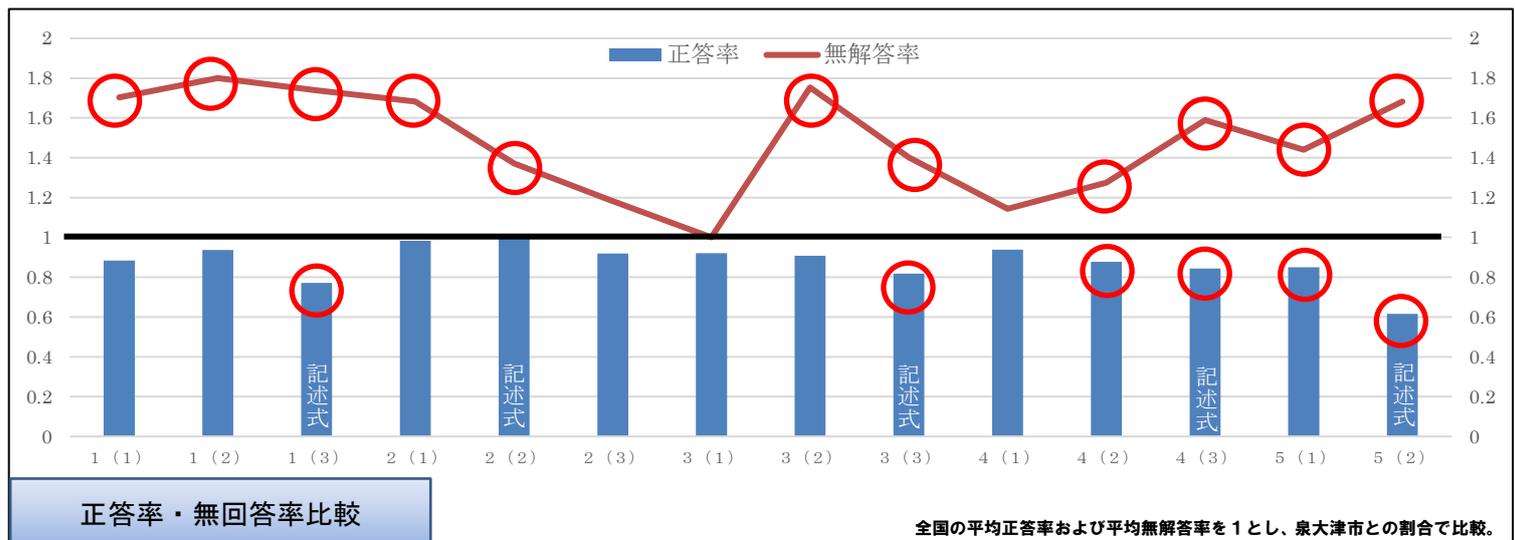


問題解決の方法や、判断の理由を数学的な表現を使って説明することに課題があり、指導の充実が求められる。

## 正答数分布



全国は5問、府は4問を頂点とした山型分布に対し、本市は3問と6問を頂点とした左よりの二山分布である。



## 正答率・無解答率比較

## 成果及び課題のみられた問題

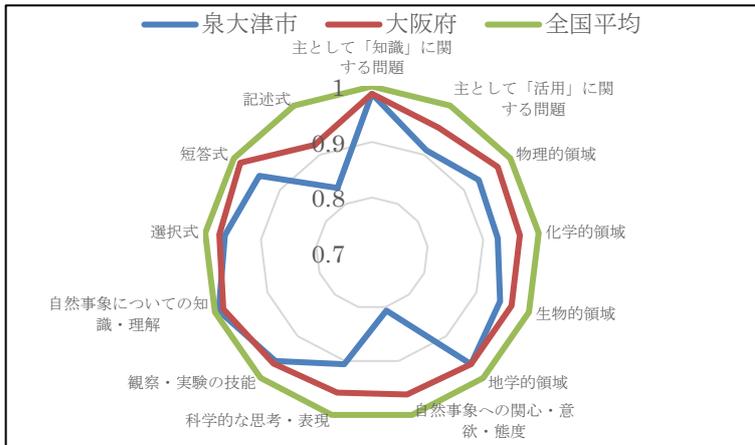
- ◆不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる【1(3)】
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できる【3(3)】
- ◆発展的に考え、条件を変えた場合について、照明の一部を書きなおすことができる【4(2)】
- ◆付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる【4(3)】
- ◆与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理できる【5(1)】
- ◆数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明できる【5(2)】

# 中学校 理科

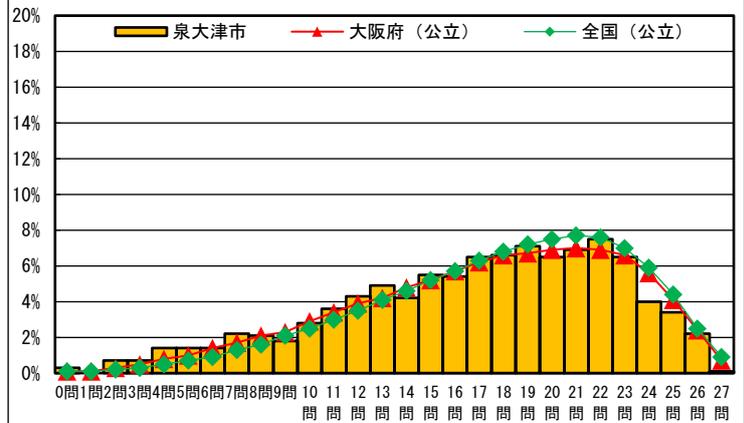
(主として「知識」および「活用」に関する問題)

## 領域・観点・問題形式別

※全国を1.00とする

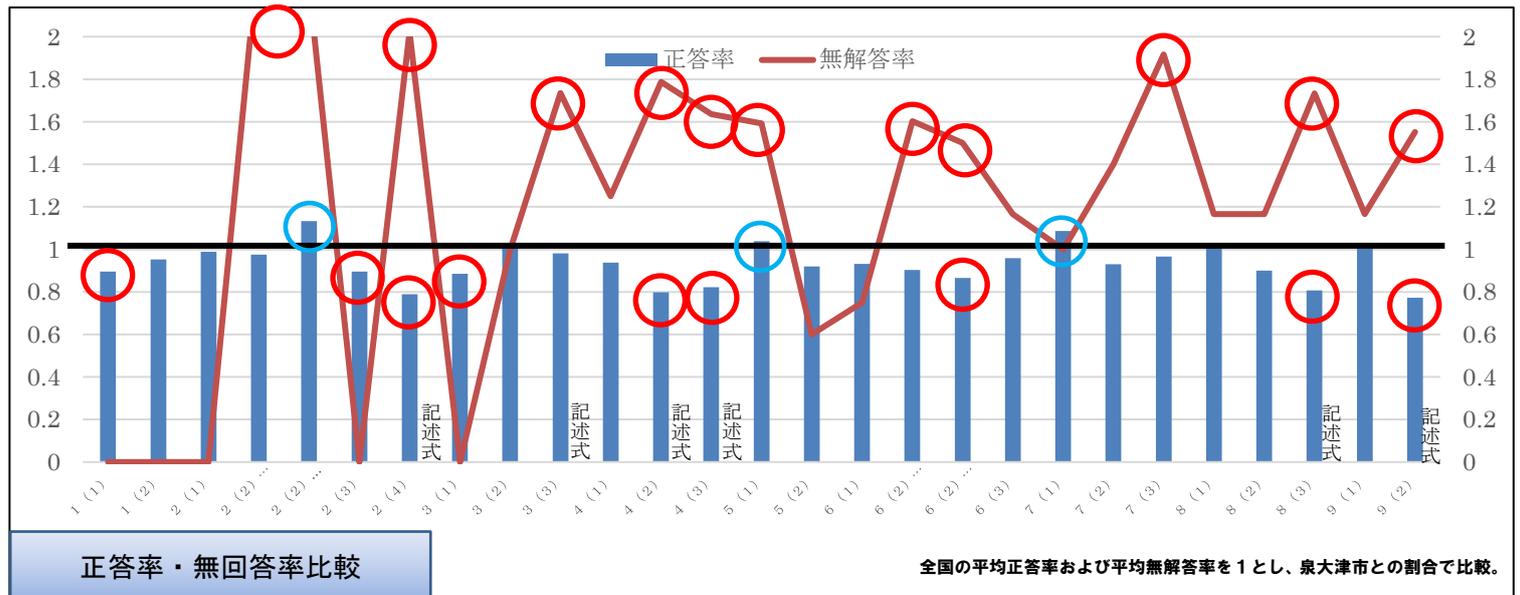


## 正答数分布



観察・実験の結果に基づいて自他の考えを検討し改善することや、実験を計画する事に課題が見られる。

全国・府は21問を頂点とした山型分布に対し、本市は22問と19問を頂点とした二山分布である。



## 正答率・無回答率比較

全国の平均正答率および平均無解答率を1とし、泉大津市との割合で比較。

## 成果及び課題のみられた問題

- ◆条件制御の知識・技能を活用して、要因が複数あると考えられる自然の事物・現象の実験を検討して改善し、1つの要因（変える条件）を変えるとその他にも変わる可能性のある要因（変わってしまう条件）を指摘できる【2(4)】
- ◆条件制御の知識・技能を活用して、課題解決や実験の目的に正対した変えない条件を適切に指摘できる【4(2)】
- ◆化学変化の前後で原子の種類と数は変化しないという知識を活用して、化学変化を表した原子や分子のモデルを検討して改善できる【4(3)】
- ◆探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし、探究を深めようとしている【8(3)】
- ◆自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画できる【9(2)】